

## Marco Gallery

Eiji Sumi × Joe Takahashi × Nobuaki Maeda  
Group Exhibition

引かれ、揺れ、留まる

2026.02.14 SAT - 03.14 SAT

Opening Hours : 13:00-18:00

Closed : Monday / Tuesday / National Holidays

Wednesday by appointment only

On the final day of the exhibition, closing time is 17:00



# STATEMENT

---

本展は、「重力」を手がかりに、目には見えない力の存在を探る三名の作家による展覧会です。

情報や言葉が過剰に流通する現代社会において、私たちは何を信じ、どこに拠り所を見出すのか。その答えを見失いつつあるように思われます。SNSによる言説の氾濫、政治や社会への不信、孤独の深化——こうした現象の背景には、見えない力への想像力の衰退が潜んでいるのではないのでしょうか。

だからこそ本展では、重力という原初的で普遍的な力を通して、「信じること」や「見えないものとの関係」をもう一度身体的に感じ直す場を構築したいと考えています。

展示は、内省・社会・自然という三つの異なる重力の層を通して構成されます。

前田信明氏は、自己の内奥に沈潜しながら、画面と対話するように色層を幾重にも重ね、そのなかから水平線を浮かび上がらせます。そこに、彼がフリーハンドで一本の垂線を引く。その垂線は、息を止めるような緊張のうちに刻まれたものであり、禅問答のように、抵抗と許容を往還する精神の痕跡として立ち上がります。

水平と垂直、静と緊張、受容と葛藤——その交差のなかに、あらゆる出来事を引き受けながらもなお世界を受け止めようとする、前田氏の「内なる重力」が現れているのです。

隅英二氏は、巨大都市に生きる人々の身体感覚と社会構造の力学に関心を寄せています。ニューヨークやバンコクを拠点に、科学とアートを架橋しながら、人間の関係性の中に作用す

る見えない力を「社会的重力」として表象します。彼の作品では、物理的な重力と社会的な圧力とが交錯し、私たちの関係性がいかに目に見えない力の均衡によって保たれているかが浮かび上がります。その探求は、社会の中で生きる身体の「重さ」と「浮力」を同時に問いかけるものです。

高橋穰氏は、私たちが日々触れているにもかかわらず、科学だけでは捉えきれない「見えない力」への関心を出発点に制作を行っています。彼にとって地球は最大の彫刻であり、絶えず変化を続ける巨大な粘土のような存在です。彫刻という行為を通して、物質と重力、そして存在の関係に介入しようとする彼の試みは、形として定着しない力そのものの痕跡を探るものでもあります。

そこには、宇宙的な視点から世界の均衡を見つめ直そうとする意志が息づいています。

この三者の実践は、それぞれ異なる方向から「見えない力」に向き合いながら、最終的に一つの問いへと収束していきます。

内なる精神の重力、社会の関係性としての重力、そして自然・宇宙の重力。

これら三つの軌道が交わる空間において、鑑賞者は自らと世界とのあいだに作用する見えない力を、体感的に再発見することになるでしょう。

本展が、見えないものへの想像力を取り戻すための、小さな試みとなることを願っています。

\* 本展の前田信明作品については、参考作品としてコレクション作品を出展しております。





# 高橋 穰 Joe Takahashi

1999年 東京生まれ

2018年 都立総合芸術学校美術科彫刻専攻卒業

現在 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程2年に在籍

2023年から東京と茨城県笠間市の2拠点で制作を行っている

私たちは日々、輪郭を持たない力に囲まれながら生きている。

それは、重力や時間といった物理的作用から、妖怪や疫病として語られてきた不安や恐れに至るまで、形を持たないまま社会や身体に作用してきた力である。私は、こうした不可視の力がどのように物質や身体に影響を及ぼし、認識の前提を形づくってきたのかを、彫刻を通して探求している。

従来の彫刻は、地上に立つ身体の状態をトレースすることによって、人間の身体と地上の重力を不可分のものとして表象化してきた。そこでは重力は前提条件として不可視化され、彫刻はそれに従属する存在として成立していたと言える。私はその構造を継承しつつ、自らが重力を生み出し、あるいは打ち消すかのように振る舞う彫刻を通して、力が作用する過程そのものを扱い、彫刻の成立条件をあらためて問い直すようにしている。

私にとって地球は、最大の彫刻である。質量と回転エネルギーを内包し、絶えず形を変え続ける巨大な粘土のような存在だ。地球は静止した土台ではなく、「彫刻的な運動体」として、

私たちの身体や認識に絶えず影響を与えている。私は彫刻を通してその一部と接点をつくり、地球（重力）を前提に定義されてきた彫刻の存在論を、より宇宙的な視点へと拡張することを目指している。

地球の力は、植物の成長や人間の身体感覚といった身近な現象の中にも現れている。私たちは無意識のうちに重力を感知し、その方向性を前提として世界を認識しているが、同時に、説明しきれない揺らぎや不安を、妖怪や疫病といった存在として名づけてきた歴史も持っている。

私は、こうした認識の構造そのものを彫刻によって揺さぶることを試みている。重力に従属するはずの彫刻を、あたかも重力そのものを発生させる存在として立ち上げ、さらに地球の自転による遠心力との拮抗関係を浮かび上がらせることで、複数の見えない力が均衡を保ちながら作用する場を可視化する。形としては捉えきれないが、確かな歪みとして立ち現れる「なにか」を見出すことが、私の制作の核である。

## 主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

### 個展

2025 「Sence of Wonder- 幽玄 -」 Marco Gallery 大阪

### グループ展、イベント

2025 「150年」都内某所 東京

「PARTY vol.1/

DAIMARU TOKYO ART GALLERY OPENING SHOW 大丸東京店 10F GALLERY 東京

「P.O.N.D 2025」SIBUYA PARCO | 東京



## 主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

### グループ展、イベント

2024 「SHIBUYA STYLE VOL.18」西武渋谷店・美術画廊 オルタナティブスペース 東京  
「一番美味しく食べるには？」Marco Gallery 大阪  
「Neither」Marco Gallery 大阪  
「Saturday night once more」curated by Marco Gallery Wall\_alternative 東京  
「WHAT CAFE—DELTA “TOPOLOGY”」exhibited by Marco Gallery WHAT CAFE 東京

2023 「あそこと私との間にある距離、あれと私との間にある大気、  
あなたと私との間にある雰囲気」Token Art Center 東京  
「公園 - 記憶の合流地点」Marco Gallery 大阪  
「NACC Vol.5」日本橋アナーキー文化センター 東京  
「東京藝術大学卒業・終了制作展」東京藝術大学 東京

2022 「KENMA studio last exhibition」KENMA studio 東京

2021 「東京屋上区 - 高橋穰・森山瞬 -」四谷TT ビル 東京  
「One for ball, Ball for one.」KENMA studio 東京  
「水の波紋 2021 関連企画 SIDE CORE pop up “地球, 神宮前, BONOBO”」BONOBO 東京

### アートフェア

2025 「MEET YOUR ART FESTIVAL 2025」天王洲運河エリア一帯 東京  
「Art Osaka 2025-Expanded Section-」  
exhibited by Marco Gallery クリエイティブセンター大阪 大阪

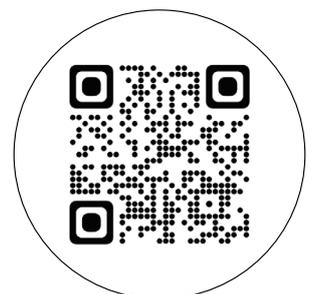
2024 「MEET YOUR ART FESTIVAL 2024『NEW ERA』」天王洲運河エリア一帯 東京  
「Five Galleries Art Fair in Spiral 2024」exhibited by Marco Gallery スパイラルガーデン 東京

### 芸術祭・レジデンス

2024 「Atami Art Grant 2024『超 -Beyond ATAMI-』」 熱海市

### ディレクション

2025 「ジュエリーブランド JUSTIN DAVIS 2025 FW Collection Show 空間設計」東京





高橋穰 展示風景 [MYAF 2025]  
壁面中央「装置 #22\_Gravity Plant\_Mk8」  
手前「装置 #23\_Gravity Plant\_Mk9」  
撮影：Minami Kamada





高橋穰 展示風景 [ 個展 Sense of wonder - 幽玄 - ] 2025  
壁面「Geoid Flame シリーズ」(2025)  
撮影：岡はるか





高橋 穰 展示風景 [ART OSAKA 2025 Expanded Section]  
中央「装置 #1」(2023)  
撮影：岡はるか





高橋穂  
「GEOID RING IV」2024  
シルバー 925 水平管





高橋穰  
「GEOID RING VI」2024  
シルバー 925 水平管





# 隅 英二 Eiji Sumi

1970年千葉生まれ。立教大学社会学部卒業、  
キングモンキット工科大学大学院 Visual Communication 学科修了。  
現在バンコク タイランドを拠点に活動。

隅英二は、アートと科学、そして社会のあいだに広がる領域を横断しながら制作を行うマルチディシプリナリー・アーティストである。現象を探るインスタレーションを通して、光や波、重力、粒子の運動、時間といった科学的原理を、身体で知覚される体験へと変換し、自然と人工が交わる場を立ち上げてきた。

その作品は、物理現象の探究にとどまらず、遊びの感覚や物語の断片、さらには社会や歴史の中で共有されてきた思考や信念へと静かに連なっていく。照明、キネティクス、絵画、写真、デザインという多様な表現領域を背景に、テクノロジーと自然の力を重ね合わせながら、知覚の変調や認識のずれを生じさせる空間と作品を構成している。

1994年にニューヨークへ渡り、光学やマルチメディアを応用した都市空間に設置されるインスタレーションや、デザイン等多分野とのコラボレーションを通して、ホワイトキューブに収まらない芸術活動を重ねてきた。2012年に東南アジアバンコクへ拠点を移して以降も、活動は国際的に展開され

てきた。2014年に Jim Thompson Art Center 主催の Jim Thompson Art on Farm 出展、2017年には香港「Sovereign Asian Art Award」においてショートリストに選出。2018年には、ノーベル博物館との協働によりシンガポールのアートサイエンス・美術館で作品を発表 中国・重慶の美術館 (Essence Contemporary Art Museum / 2020) 成都 Chengdu Time Art Museum 2022、熊本市現代美術館 (2021)、日本・中国・タイ・インドネシアを巡回した「ホテル・アジア・プロジェクト」(2015-2021) など、各地で展示を重ねている。2022年にはバンコクで開催されたリクリットティルバーニャ、ミットジャイイン、コラクリット・アルナーノンチャイ等の著名作家を含む Sawn Siwilai 展で出展、リクリットティルバーニャが創設した Gallery VER (バンコク) では2018年および2024年に個展を開催。現在、タイ・プーケットで開催中の「Thailand Biennale Phuket 2025-2026」にて、大型パブリックアート作品を展示しており、最前線のプロジェクトとして注目されている

## 出展作品ステートメント

水光時幻 / Water, Light, Time, Phenomena シリーズ

本作は、光や時間、そして鑑賞者の動きによって変化し、安定することを拒むイメージを探求している作品です。絵画の表面は、現れと消失のあいだに位置する「閾 (しきい)」として機能し、形象は固定されることなく、浮かび上がっては退いていく。色彩もまた一定ではなく、周囲の光や環境を受け取りながら、その都度異なる表情を立ち上げます。

各作品は、ミクストメディアと水を用いたたらし込み技法によって、表面がやわらかく、あるいは激しく再編成されています。ここで起こる侵食は破壊ではなく、編集として働き、委ねる行為によって生まれた秩序ある静けさが画面に残されています。ストロークの可視性や色の強度は、鑑賞者の視点や光の

角度によって変化し、ゆっくりとした注意深い出会いへと導きます。

作品は一日の中で異なる応答を示し、昼間には周囲の光を取り込みながら明確に立ち現れ、夕刻には後退しつつも、反射や影、光の色や角度の変化によって再び姿を現す。鑑賞者が移動するにつれ、像を見ることが自身の存在を意識することのあいだを往復する感覚が生まれ、ふとした気づきの瞬間が立ち上がります。

抽象でありながら具象をいききする、これらの絵画は、固定された意味を内包するのを越えて、時間と知覚を通して徐々に展開していきます。そこでは、像を見る行為と自己の存在を感じ取ることのあいだを行き来する体験へと鑑賞者を導きます。

## 主な展覧会歴 (個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他)

### 個展

- 2024 Wave Garden インスタレーション+絵画 Gallery VER(バンコク タイ)
- 2019 Neo-Classic Banality インスタレーション D & U Art Space(江景[ジャンジン] 中国)
- 2018 Play(e)scape インスタレーション+写真 Gallery VER(バンコク タイ)
- 2014 Transverse インスタレーション hpgrp Gallery(ニューヨーク アメリカ)
- 2014 Quark インスタレーション H Gallery at Hspace(バンコク タイ)
- 2012 Under-Construction インスタレーション+絵画 WTF Gallery(バンコク タイ)



## 主な展覧会歴 (個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他)

- 2012 Densen +  $\alpha$  インスタレーション+絵画 Koi Art Gallery(バンコク タイ)  
2011 Speed of Life インスタレーション  
Invisible Dog Art Center(ブルックリン ニューヨーク アメリカ)
- グループ展、イベント
- 2025-2026 Whisper of the Forest インスタレーション タイランド・ビエンナーレ(タイ)  
2022 Newtonic(Eiji Sumi + Jinjoon Lee 二人展) ビデオ  
チュラロンコン大学デザインセンター(バンコク タイ)  
2022 Here and There インスタレーション i-Light Singapore(シンガポール)  
2022 Vacant Lot 写真 成都タイム・アート・ミュージアム(成都 中国)  
2022 Here and There インスタレーション Sawan Siwilai(バンコク タイ)  
2020 Cocoon II インスタレーション エッセンス現代美術館(重慶 中国)  
2019 Hotel Asia Exhibition - Play(e)scape 写真 バラック(沖縄 日本)  
2018 All Possible Paths - Richard Feynman's Curious Life インスタレーション  
アート・サイエンス・ミュージアム(シンガポール)※ノーベル博物館とのコラボレーション  
2017 Sinusoid 彫刻 ホテル・アートフェア・バンコク(バンコク タイ)  
2017 Farewell Upper Blue 彫刻 チュラロンコン大学アートセンター(バンコク タイ)  
2016 Vacant Lot + Sinusoid 彫刻+写真 グローバル・ホステル・ミュージアム(合肥 中国)  
2016 Oscillation / Quark IV インスタレーション クリスティーズ・オークションハウス(香港)  
※ソブリン・アジアン・アート・プライズ最終選考展  
2015 Time インスタレーション BTS スカイウォーク(バンコク タイ)  
2015 Canvas of Life インスタレーション LP Art Space(重慶 中国)  
2015 Canvas of Life インスタレーション バンコク大学ギャラリー(BUG)(バンコク タイ)  
2015 Canvas of Life インスタレーション Gallery SOAP(北九州 日本)  
2015 Countless Measure インスタレーション バンコク芸術文化センター(BACC)(バンコク タイ)  
2013 Cocoon インスタレーション Jim Thompson Art on Firm(コラート タイ)  
2013 Monitor / Sinusoid 彫刻 The Space Bangkok(バンコク タイ)  
2011 Diaphaspectrum インスタレーション  
Nuit Blanche New York / Bring To Light Art Festival(ブルックリン ニューヨーク アメリカ)  
2010 Chimera of Meteo-Shower インスタレーション  
Nuit Blanche New York / Bring To Light Art Festival(ブルックリン ニューヨーク アメリカ)  
2010 Limited Editions Unlimited Design インスタレーション/照明デザイン  
Salomon Arts Gallery(トライベッカ ニューヨーク アメリカ)  
2009 Light It Up インスタレーション/照明デザイン  
Salomon Arts Gallery(トライベッカ ニューヨーク アメリカ)  
2009 Toast Tribeca - Untitled 絵画  
Salomon Arts Gallery(トライベッカ ニューヨーク アメリカ)  
2007 Land(e)scape - Noho-One line drawing series ドローイング  
Onishi Gallery(チェルシー ニューヨーク アメリカ)

## 助成・受賞

- ソブリン・アジアン・アート・プライズ ファイナリスト(香港、2016)  
チュラロンコン大学 アーティスト・レジデンシー・フェローシップ(2012-2015)  
国際交流基金 アート・文化交流助成(2012)  
ニコグラフ インターナショナル(京都)  
Best Paper Presentation Award  
国立アートリサーチセンター タイランドビエンナーレ助成





Here and There ことそこ  
2018

5m x 5m x 2m

鉄、木、ハイドロリックダンパー、センサー、マイクロデバイス、照明





Wave Garden 波の庭園  
2024

12m x 29cm x 1m 30cm

テンパーガラス、木、鉄、アルミ、マイクロデバイス、ステップモーター



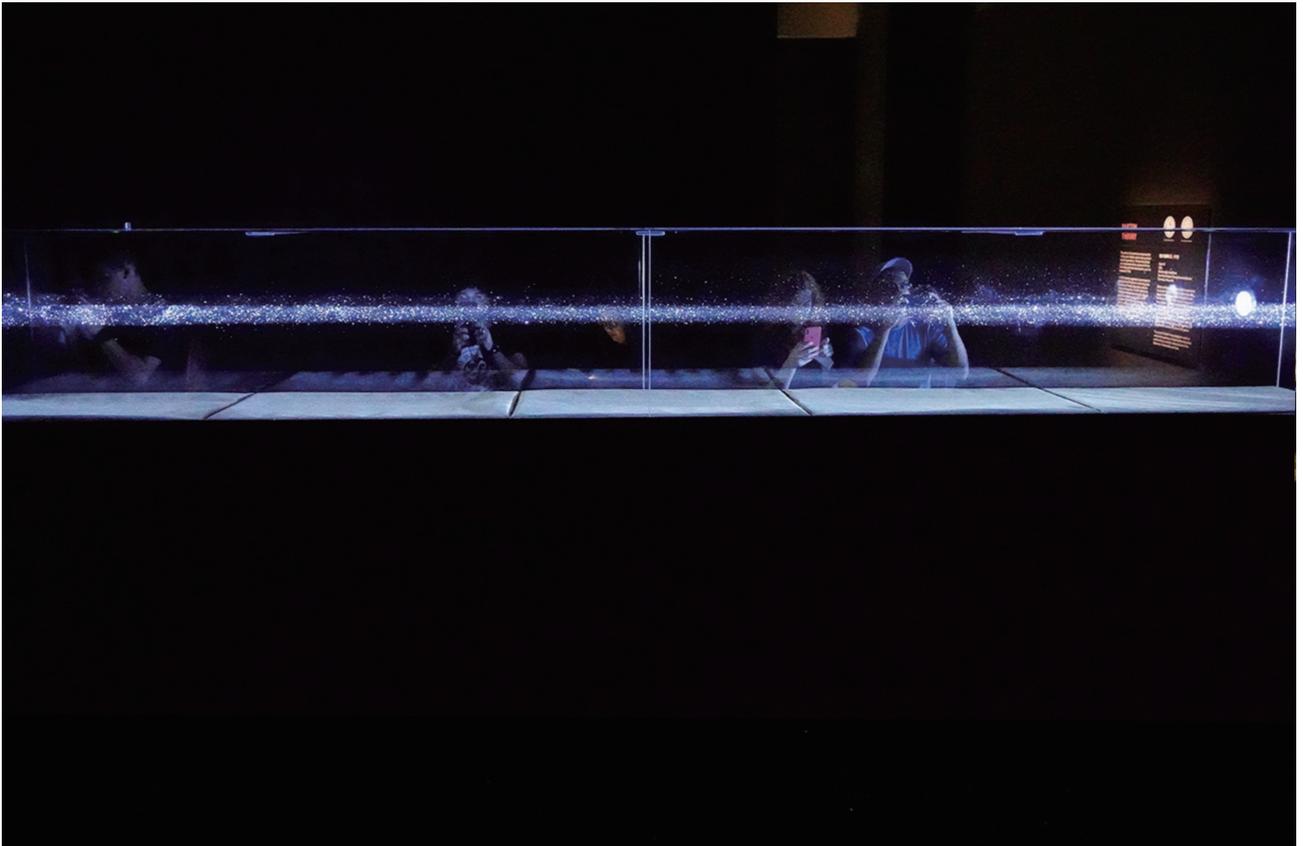


Whisper of the forest 森の囁き  
2025年

1 m 4 0 cm x 1 / 2 m x 2 / 2 m 2 0 cm / 2 m 5 0 cm / 3 m x 2

竹、木、鉄、アルミ、レンズ、照明、コンピューター、DMX splitter センサー





Quark IV クワーク IV  
2018

7m x 60cm x 2m

テンパーガラス、木、鉄、アルミ、スマートステップモーター、照明、センサー





Emerge 水光時幻シリーズ  
雷雲  
2026年  
キャンバス 混合技法  
40cm x 50cm





# 前田 信明 MAEDA Nobuaki

1949年、熊本県出身、同地在住

中学・高校の美術教諭を経て、九州産業大学造形短期大学部特任教授を務めた。自らが立つ大地によって、重力という垂直性、地平・水平線という世界が続いていく感覚。その広がり空間による純粹抽象を一貫して追究。1970年の第10回東京ビエンナーレ東京都美術館「人間と物質」にて美術家・田中信

太郎のアシスタントとして参加、成田克彦をはじめ、もの派や前衛作家と出会う。1975年、サトウ画廊（東京）にてシェイプト・キャンバスの純粹抽象絵画で初個展。GALLERY SHILLA(大邱、ソウル)の所属作家として、おもにアジアを中心に多くの個展やグループ展を開催。

## 主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

### 個展

- 1975 シェイプト・カンヴァスによる純粹抽象絵画 サトウ画廊(東京 日本)※初個展
- 1984 個展 銀座絵画館(東京 日本)
- 1995 個展 熊本県立美術館(熊本 日本)  
※同館にて1998年、2003年開催
- 2000 個展 久我記念美術館(福岡 日本)
- 2008 個展 調布画廊(東京 日本)
- 2012 個展 宇久画廊(福岡 日本)  
※同画廊にて2015年開催
- 2013 個展 KID AILACK ART HALL(東京 日本)
- 2013 個展 ギャラリー尾形(福岡 日本)
- 2014 個展 the bridge(大分 日本)
- 2016 個展 GALLERY SHILLA(大邱 韓国)
- 2022 個展 GALLERY SHILLA-SEOUL(ソウル 韓国)
- 2022 個展 ART SPACE はね(熊本 日本)
- 2023 BLUE'S RECENT WORKS Contemporary HEIS(東京 日本)
- 2024 HARAJUKU PROJECT 2024 GALLERY KTO(東京 日本)
- 2024 個展 GALLERY SHILLA-SEOUL(ソウル 韓国)
- 2025 垂直と水平 - VERTICAL AND HORIZONTAL Gallery Cocon 古今(東京 日本)
- 2025 浸透する色彩 - Permeating Color Contemporary HEIS(東京 日本)  
TEZUKAYAMA GALLERY(大阪 日本)

### 主なグループ展

- 1978 第1回北九州絵画ビエンナーレ 北九州市立美術館(福岡 日本)
- 1981 形態と現象 三人展 銀座絵画館(東京 日本)
- 1983 遊歩者展 エンバ文化ホールギャラリー(東京 日本)
- 1984 日韓現代美術展  
福岡市美術館／田川市美術館(福岡 日本)  
韓国文化芸術振興院美術館／公平美術館／世宗文化会館美術館(ソウル 韓国)  
※1984-1994年 韓国 ORIGIN メンバーとして参加
- 1984 PURE ABSTRUCTION(二人展) 銀座絵画館(東京 日本)
- 1985 世代 1985 KYUSHU 石橋美術館(福岡 日本)



## 主な展覧会歴 (個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他)

- 1986 視線の自立 - 11の方法展 石橋美術館(福岡 日本)
- 1986 現代のイメージ - 平面と空間 - 熊本県立美術館(熊本 日本)
- 1988 BLACK CONSTRUCTION - 触知される風景 - 福岡市美術館(福岡 日本)
- 1989 構築と解体のヴィジョン 熊本県立美術館(熊本 日本)
- 1994 Schwarz II モダンアートバンク WALD(福岡 日本)
- 1998 造形の冒険 - 広がりゆく絵画ワールド 熊本県立美術館(熊本 日本)
- 2001 空間・情報・身体 熊本県立美術館分館(熊本 日本)
- 2002 20世紀。美術は虚像を認知した - モナ・リサとマンモンのあいだで - 平塚市美術館(神奈川 日本)
- 2003 水平の衝撃 楠本正明+前田信明 神奈川県民ホールギャラリー(横浜 日本)
- 2005 ゼログラフィーと70年代 Art Space by Fuji Xerox(東京 日本)
- 2006 現代美術の還元と拡散展 HANGARAM MUSEUM(ソウル 韓国)
- 2009 メリー・ゴー・ラウンド - 煌めきと黄昏 - 熊本市現代美術館(熊本 日本)
- 2011 空間をめぐる四つの対話 井川惺亮+岸本吉弘+星加民雄+前田信明  
熊本県立美術館分館(熊本 日本)
- 2013 多様な現代美術の動向 大分市美術館(大分 日本)
- 2013 TETRAHEDRON YAS-KAZ+山木秀夫+前田信明  
KID AILACK ART HALL(東京 日本)
- 2013 Media City Daegu / Urban Montage Daegu Art Factory(大邱 韓国)
- 2015 版画コレクションのあゆみⅢ - コピー・アートの時代 -  
Fuji Xerox Art Space(横浜 日本)
- 2015 Park Nam Hee+Nobuaki Maeda ROW Gallery(慶州 韓国)
- 2015 大分発アヴァンギャルド - 芸術都市の水脈 大分市美術館(大分 日本)
- 2016 複製技術と美術家たち - ピカソからウォーホルまで - 横浜美術館(横浜 日本)
- 2017 超抽象 超絵画 / THREE CRASH WHITE SPACE ONE(福岡 日本)
- 2019 前田信明+岸本吉弘 新作展 ギャラリー尾形(福岡 日本)
- 2019 2019 Summer / Autumn 6・Six Crash  
熊本県立美術館分館(熊本 日本)／熊川宿若狭美術館(福井 日本)
- 2020 近藤克+前田信明 ギャラリー尾形(福岡 日本)
- 2021 第72回全国カレンダー展コンペティション  
VERTICAL AND HORIZONTAL 実行委員会奨励賞
- 2021 Commission Work - WALL ART(7×22m) 府内町(大分市 日本)
- 2021 Beyond the Canvas 桑山忠明+鈴木隆+前田信明  
GALLERY SHILLA(大邱 韓国)
- 2021 CAMK コレクション展 - 不思議な部屋 - 倉重光則+前田信明+星加民雄  
熊本市現代美術館(熊本 日本)
- 2022 アートフェア東京2022 桑山忠明+前田信明 東京国際フォーラム(東京 日本)
- 2022 IMPRESSION OF MONOCHROME 桑山忠明+前田信明  
Contemporary HEIS(東京 日本)
- 2022 Ideas and Minimal Art GALLERY SHILLA(大邱 韓国)
- 2022 - もの派からミニマルへ - 成田克彦+前田信明 Contemporary HEIS(東京 日本)
- 2023 NEXT 30 : PART 2 "International" GALLERY SHILLA-SEOUL(ソウル 韓国)
- 2023 美の鼓動・九州 / たいせつなあいまいさ 九州産業大学美術館(福岡 日本)
- 2024 祈りのかたち  
小川佳夫／平野泰子／前田信明／加藤舞 キュレーター：大島徹也  
MARUEIDO JAPAN 企画 古美術長野(東京 日本)



## 主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

2024–2025

カラーズ – 色の秘密にせまる

印象派から現代アートへ

ポーラ美術館(箱根 日本)

2025 呼吸する絵画 – 交差と渦

前田信明 × 谷崎一心

LURF Gallery(東京 日本)

2025 On Paper GALLERY SHILLA(大邱 韓国)

2025 THE ARMORY SHOW 2025

菊畑茂久馬 + 桑山忠明 + 内藤楽子 + 前田信明

Contemporary HEIS

JAVITS CENTER(ニューヨーク アメリカ)

## 主なコレクション

横浜美術館

ポーラ美術館

熊本市現代美術館

大分市美術館

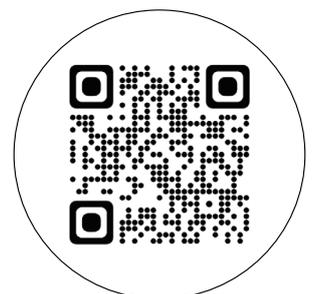
PARK SEOBO FOUNDATION(ソウル 韓国)

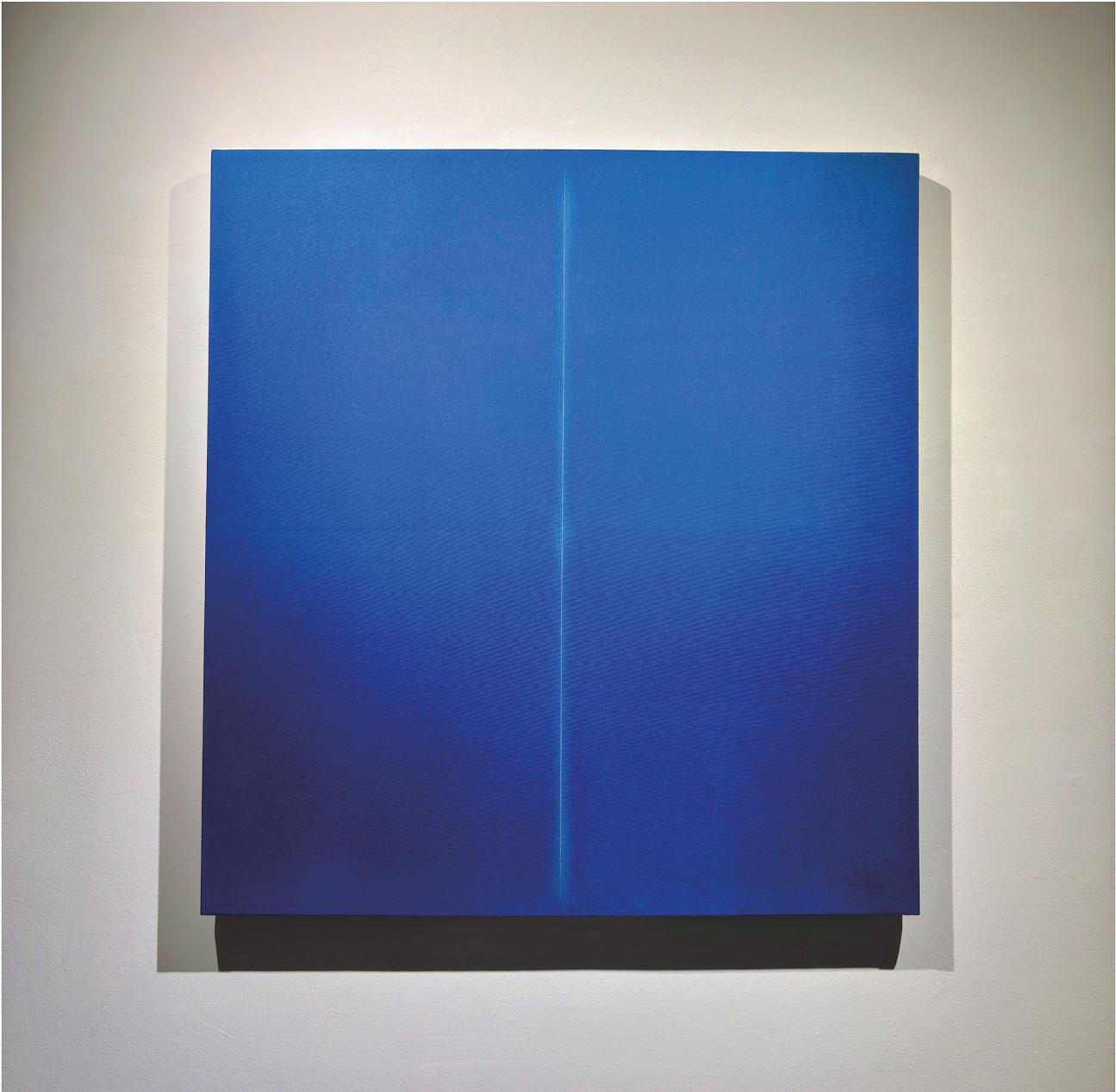
国立慶北大学校美術館(大邱 韓国)

大分市パブリックアート(ウォールペインティング 7×22m / 府内町 大分市)

コミッションワーク

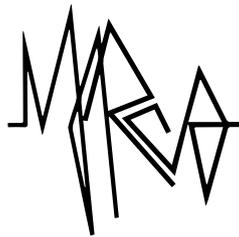
ザ・リッツ・カールトン福岡(福岡市 日本)





UDB23-0915  
2023  
H106.3 × W98.3 × D4cm  
Acrylic, pigment on canvas





## Marco Gallery

Opening Hours : 13:00–18:00

Closed : Monday / Tuesday / National Holidays

Wednesdays by appointment only

On the final day of the exhibition, closing time is 17:00

---

お問い合わせ : [info@marcoart.gallery](mailto:info@marcoart.gallery)

大阪府大阪市中央区南船場 4-12-25 竹本ビル 1F,3F,4F

Takemoto BIDG 1F,3F,4F 4-12-25 Minamisenba Chuo-ku,

Osaka City, Osaka, Japan

Tel: +81 06-4708-7915 E-mail: [info@marcoart.gallery](mailto:info@marcoart.gallery)

